

令和7年度 第2回 成田市保健福祉審議会

- 1 開催日時 令和7年8月4日(月)午前10時00分から午前11時50分
2 場 所 成田市役所議会棟3階 第一委員会室
3 出席者 審議会委員 12人
西田会長、山田(三)副会長、林委員、中佐藤委員、秋葉委員、城委員、小暮委員、
山田(徳)委員、飯田委員、横山委員、高橋(雅)委員、木村委員
(欠席3名:野内委員、里見委員、高橋(知)委員)
事務局
堀越福祉部長、宮崎こども未来部長、高橋健康推進部長、
鈴木社会福祉課長、辻高齢者福祉課長、橋本障がい者福祉課長、野村介護保険課長、
菅谷こども政策課長、川名部子育て支援課長、弘海保育課長
柴田地域医療政策課長、森田健康増進課長、他各課担当職員

4 議 事

(1)各種計画について

- ①成田市総合保健福祉計画
- ②第7期成田市障がい福祉計画・第3期成田市障がい児福祉計画
- ③第9期成田市介護保険事業計画
- ④第2期成田市子ども・子育て支援事業計画
- ⑤成田市健康増進計画
- ⑥第2期成田市歯と口腔の健康づくり計画
- ⑦いのち支える成田市自殺対策計画

5 報 告

- (1)成田市介護・医療地域資源情報管理システムについて
- (2)第1回成田市保健福祉審議会子ども・子育て支援部会の報告について

【概要】

議事(1)

(議長)

それでは、議事(1)各種計画について、まずは①成田市総合保健福祉について、事務局の説明を求めます。

(社会福祉課長)

私からは、総合保健福祉計画について説明させていただきます(以下、概要を記載)。

- ・総合保健福祉計画は、社会福祉法において、地域福祉の推進に関する事項として、地域における高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉、その他の福祉の各分野における共通的な事項などを一体的に定める計画である。
 - ・高齢者、障がい者、児童、保健などの分野については、各担当課の事業計画説明と重複する部分もあるため、「地域福祉の推進」と「自立・就労支援の推進」に絞った説明となる。
 - ・「地域福祉の推進」のうち、「包括的な支援体制の構築」では、「断ることのない」支援体制を構築するため、令和5年度より、成田市包括的相談支援連携会議を設置し、令和6年度は3回開催した。
 - ・民生委員・児童委員、主任児童委員は、地域の高齢者や障がいのある方などの見守りや支援に尽力いただいている。全国的に深刻になっている民生委員のなり手不足について、本市においても欠員が生じており、地域の皆様にご協力をいただきながら、引き続き欠員の解消に努めていく。
 - ・「避難行動要支援者支援の推進」について、避難行動要支援者の同意を得たうえで、避難行動要支援者同意者名簿を作成している。名簿は、地区における見守り体制の強化や、災害時の避難行動などに活用いただくため、各地区・自治会、自主防災組織、民生委員・児童委員などの避難支援等関係者に提供している。なお、この避難行動要支援者の要件については、避難支援等関係者の要望を受け、本年3月に一部要件を変更している。
- また、要支援者一人ひとりの避難計画を定める「個別避難計画」の作成について、「要支援者」の状況を把握しているケアマネジャーをはじめとする福祉専門職への委託化を進めている。福祉専門職の繁忙や人手不足もあるため、作成は容易ではないが、今後も、洪水浸水想定区域や要支援者の心身の状況なども踏まえたうえで、支援の優先度に応じた計画作成に努めていく。

- ・「自立・就労支援の推進」のうち、生活保護については、保護世帯は微減、保護人員数ともに微減である。生活保護に至る前の方を支援する生活困窮者自立支援事業については、自立相談支援機関である「暮らしサポート成田」において支援を実施しているが、令和6年度の相談受付件数は3,415件で、令和5年度の3,147件と比較しますと増加しており、新型コロナウイルスの影響が残っている令和4年度と比較すると減少しているが、コロナ禍前の令和元年度と比較した際は増加傾向である。
 - ・成田市社会福祉協議会は、地域住民を中心に、ボランティア、保健・福祉関係者、行政等と協力し、地域福祉活動とともに考え推進していくことを目的とした社会福祉法人であり、「ボランティア活動」や「住民参加型在宅福祉サービス」「地域コミュニティづくり推進事業」などの自主事業を実施するとともに、本市と協力した事業を推進している。
 - ・現行の総合保健福祉計画は、令和3年3月に、前の計画の基本理念を継承し、策定、推進しているが来年、令和8年度が計画の最終年度となる。同じ時期に計画が終了する「成田市障がい福祉計画」及び「成田市介護保険事業計画」と併せて、今年度と来年度の2ヶ年に渡り、現行計画の見直しと次期計画の策定を行う予定である。
 - ・計画の見直しスケジュールとしては、今年度にアンケート調査を実施し、年度末までに取りまとめ、それらを基礎資料として、来年度前半に素案を作成予定である。来年度は、1回目の審議会で、国の動向や見直しの方向性等の主旨について説明し、2回目で素案審議、年末年始にパブリックコメントを実施したのち、年明けに計画案を取りまとめ、審議会に諮問させていただく予定であるが、庁内関係部署間で行う策定委員会や、見直し作業の進捗等にもよるため、現時点では目安となる。
- 以上、総合保健福祉計画についての説明となります。

(議長)

総合保健福祉計画の進捗状況についてご説明がございましたけれども、ご意見ご質問等々ありませんでしょうか。

(西田会長)

民生委員の担い手不足について、高齢化問題や、委員となる方の高齢化の問題もあると思うが、どのような対策をしているのか。

(社会福祉課長)

民生委員の担い手不足に関しましては、全国的な問題であり、本市におきましても、同様の問題が生じております。本市といたしましては、地区から推薦が得られなかった場合に、地区社会福祉協議会に協力をお願いしております。また、区・自治会が組織されていない地域も増えてきておりますので、そのような地域で推薦が得られない場合などに、まずは市が、自薦・他薦を問わず相談を受け付け、一定基準に達した対象者を、地区に紹介をする形を検討しているところでございます。

(西田会長)

欠員に関しては、公津とNT地区に特化している状況であり、全域に係る問題ではないが、その地区の世帯構成等に応じた対策を講じる必要があると思われる。

(中佐藤委員)

ボランティア活動について。団体活動がかなり減っている一方で、個人の活動は増えている。その理由は。

(社会福祉課長)

団体活動が減少した理由といたしましては、コロナ禍で団体活動が中止となった影響を受け、団体が解散する等し、その後で団体数が元に戻っていない状況であります。一方で個人のボランティア活動は、大学生を中心に、意欲が高い方の活動が増加していると伺っております。

(西田会長)

私が勤める国際医療福祉大学では学部の開設が進んでいるが、学生のボランティア意欲が高まっているのを感じている。

(城委員)

民生委員の自薦・他薦による選出方法を検討しているとのことだが、周知の方法は。

(社会福祉課長)

今後、広報なりたへの掲載や、市ホームページにおける周知を検討しているところでございます。

(議長)

他の委員の方からの御質問はございますか。

(委員) 発言無し

(議長)

次に、②第7期成田市障がい福祉計画及び第3期成田市障がい児福祉計画について、事務局の説明を求めます。

(障がい者福祉課長)

それでは、第7期成田市障がい福祉計画・第3期成田市障がい児福祉計画の達成状況について、ご説明をさせていただきます(以下、概要を記載)。

- ・「地域生活に移行する福祉施設入所者数」の達成状況について、地域生活移行者の実績値及び施設入所者数は目標達成に向けて、進捗は順調である。
- ・「地域生活支援拠点の整備」の達成状況について、令和6年度から、生活上の課題を抱えつつも、様々な事情により障害福祉サービス等を利用していない者について、定期的に状況を把握することができるよう、見守り支援事業を開始した。
- ・「一般就労に移行する福祉施設利用者数」について、目標に向けての進捗は遅れているが、令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行などを理由とする経済活動の活性化によって大幅に一般就労移行者が増加したため、その反動によるものと考えられる。
- ・就労移行支援事業所及び就労定着支援事業所のうち、目標を満了した事業所の割合、就労移行が0割、就労定着が10割であり、いずれも2事業所であることから、割合が両極端な数値となった。
- ・障害福祉サービスについて、重度訪問介護は、令和6年度後半に立て続けに利用者が減ったことにより計画値を大きく下回った一方で、共同生活援助では、毎年度施設の増加を見込んでいたものの、増加が想定を上回っていたことから計画値を上回り、目標との乖離が生じた。
- ・地域生活支援事業については、制度利用の申立費用や成年後見人の報酬費用を助成する成年後見制度利用支援事業について、令和6年度の新規申立件数が少なかったことから、計画値を下回った。
- ・障害児福祉サービスについては、児童発達支援で、前計画の実績から見込みを算出したが、令和6年度に新たな児童発達支援事業所が複数開設されたことから、計画値を大幅に上回った。
- ・手帳所持者の推移については、身体・療育・精神の3手帳すべてで所持者数が増加しており、特に精神障害者保健福祉手帳の伸びが顕著である。

(議長)

それでは、事務局より事務局より、第7期成田市障がい福祉計画及び第3期成田市障がい児福祉計画についての説明がありましたが、ご意見ご質問等はありませんでしょうか。

(委員) 意見無し

(議長)

それでは、次の議事に移ります。次に、③第9期成田市介護保険事業計画について、事務局の説明を求めます。

(介護保険課長)

それでは私から、令和6年度から令和8年度までを計画期間とする「第9期 成田市介護保険事業計画」の進捗状況について、ご説明いたします。

- ・本計画は、団塊ジュニア世代が65歳以上になる令和22年(2040年)を見据え、長期的な視点で策定したものであり、計画の基本理念である「健康で笑顔あふれ 共に支え合うまち成田」は、第8期計画を継承している。

- ・「地域包括支援センターの運営」については、高齢者数や認定者数が増加傾向にある中、目標としていた件数以上の相談やケアプラン作成に対応できている。
- ・「認知症サポーターの養成推進」については、目標値を超える多くの方に「認知症サポーター養成講座」を受講いただいた。
- ・「人生カッコよくプロジェクト」と冠して開催している介護予防教室については、オンラインでの参加者が例年以上に増えたことにより、全体の参加人数が目標を大きく上回った。
- ・国際医療福祉大学との連携・委託事業として、令和6年度から、総合事業に基づく短期集中予防サービスの提供を新たに開始した。訪問できる範囲が限定されていることなどから、訪問型の実績については目標値との差が生じているが、今後さらに大学側との協議を進め、より利用しやすいサービスの構築を目指す。
- ・「なりたいいきいき百歳体操」については、登録者数や活動団体数は目標値を下回ったが、コロナ禍の影響で新規立上げが停滞気味であった時期を過ぎ、令和6年度は再び新規立上げ団体の数が増えてきている。
- ・「介護保険関連施設等の整備」について、特別養護老人ホームの整備目標200床及び介護付き有料老人ホームの整備目標70室の事業者の選定が完了している。
- ・令和6年度1年間を通した保険給付費の状況及び総合事業を含む地域支援事業の事業費の状況について、地域支援事業費は、総合事業費が計画値に対して約800万円の増、その他の区分の事業費が合わせて約3,000万円の減となったが、全体として概ね計画どおり推移している。また、保険給付費については、介護給付費が計画値に対して約2,800万円の減となる一方で、予防給付費が約400万円の増となっており、こちらも全体として概ね計画に沿った推移となっている。

(議長)

ありがとうございました。

では、今の事務局の説明について、ご意見ご質問等はありませんでしょうか。

(中佐藤委員)

地域包括支援センターの相談件数について、R6年度の実績と目標値に乖離があるが、実際の相談受付件数の許容限度はどのくらいか。

(介護保険課長)

包括支援センターについて、相談件数の上限は設けておりません。また、センターから、許容を超える相談を受けているとは聞いておりません。

(山田(徳)委員)

なりたいいきいき100歳体操について、成田地区社会福祉協議会の役員をしているため関わっているが、現在は毎回平均40人が参加し、増加傾向である。今後、この事業はどの地区で増やしていく予定なのか。

(介護保険課長)

本事業に関しましては、市内全域で増やしたいと考えております。現在はニュータウン地区での参加者が多い状況ですが、お住まいの近くでご参加いただき、市全域に広めていきたいと考えております。

(飯田委員)

同事業のサポーター養成講座の実績がゼロとなっている要因は。

(介護保険課長)

サポーター養成講座を開催しなかったためですが、既存のサポーターの方々には、熱心に活動いただいています。

(西田会長)

このような事業全般に関して、全国的にも、女性に比べ、男性の参加が少ないという問題があると思うが、成田市として何か対策は考えているか。

(介護保険課長)

本市におきましても、男性よりも、女性の参加率が高いという実態はございます。しかしながら、男性で参加いただいている方もいらっしゃいますので、お住いの地区において、お知り合いの方から声をかけていただくなどすれば、男性の参加率も増えると思われまいますので、今後、より多くの方に参加いただければと考えております。

(議長) それでは、次の議事に移ります。

④第2期成田市子ども・子育て支援事業計画について、事務局の説明を求めます。

(こども政策課長)

それでは、「第2期成田市子ども・子育て支援事業計画」の達成状況について、ご報告いたします(以下、概要を記載)。

- ・市では、平成27年4月からスタートした「子ども・子育て支援新制度」に基づき、「成田市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、令和6年度までの第2期計画に取り組んできた。
- ・児童数については、令和7年3月末日において、就学前に当たる0歳から5歳までの児童は4,817人、前年比229人減、0～17歳までの児童は18,646人、前年比601人減となり、成田市の人口に占める児童の割合は14パーセントとなった。
- ・子育て支援にかかる事業の拡大では、令和6年4月から成田幼稚園とはしが台幼稚園が新制度に移行し、松崎保育園は認可保育所から小規模保育事業所へ移行した。また、平成児童ホームの改修と新設が行われた。
- ・教育・保育における実績値では、特定教育・保育施設では、実際の施設の定員の合計が計画値を上回り、令和6年度の入所児童数は3,142人となったが、「確認を受けない幼稚園」では計画値を下回った。また、特定地域型保育事業所は16園で運営されたが、実際の施設定員は計画値を下回った。
- ・地域子ども・子育て支援事業については、13事業の実績値を示した。延長保育事業や放課後児童健全育成事業などが行われている。また、保護者の経済的負担軽減を目的として、令和5年度から「幼児に係る多様な集団活動利用支援事業」を実施している。

(議長)

ありがとうございます。ただいま事務局から説明がありましたが、ご意見ご質問はありませんか。

(西田会長)

こども世代の人口が減っているとのことだが、17歳までの世代が他世代と比べて減少しているのか、また今後、減少傾向は収まるのか。

(こども政策課長)

成田市の人口増加の要因といたしましては、転入者などの社会増が多いためであり、子ども世代については減少傾向となっております。

(西田会長)

子育て短期支援事業のショートステイについて、計画値と比べ実績が増えているが、施設が不足しているということはないか。

(子育て支援課長)

当該事業について、実績値が計画値を上回っておりますが、施設数の不足は生じておりません。

(城委員)

子育て支援事業の実績値について、事業実績がない又は少ない事業について、今後、どのような事業展開をしていく予定か。

(保育課長)

延長保育事業において実績がゼロの園が何箇所かありますが、延長保育については地域性があり、保護者の方が遅くまで就労しない場合などで延長保育の必要がなかったことが考えられます。今後につきましては、事業を知らずに利用できないということがないように、引き続き、制度の周知に努めてまいります。

(城委員)

折角の制度なので、引き続きの周知に努めてもらいたい。

(議長)

ありがとうございます。他の委員からは何かありますか。

それでは次に、⑤健康増進計画について、事務局の説明を求めます。

(健康増進課長)

それでは、「成田市健康増進計画の進捗状況について」内容が多岐とわたりますので、主な項目のみの説明させていただきます(以下、概要を記載)。

- ・基本目標1「健康寿命の延伸に取り組みます」のうち、基本施策1「生活習慣病の発症予防と重症化予防対策の推進」に対する市の取り組みとして、特定健康診査と各種がん検診の実績を説明。新型コロナウイルス感染症流行に伴い、令和元年以降は受診率が低下していたが、近年は復調傾向である。
令和6年度には肺がん検診を全て予約制とし、個別医療機関におけるがん検診の対象年齢の引き下げを行った。今後も、さらなる受診率向上に向け、引き続き取り組みを継続する必要があると考えている。
- ・基本施策2「栄養と食生活の充実」に対する市の取り組みについて、感染症が拡大した令和2年度以降、電話による栄養相談が急増したが、現在は、新型コロナウイルス感染症拡大前と同等の件数に戻っている。飲食を伴う活動も再開しており、今後も参加者と意見交換を行うなどして、よりよい活動につなげていきたい。
- ・基本施策3「適度な身体活動・運動の継続」に対する市の取り組みについて、事業の中止や縮小により前年を下回る事業もあるが、おおむね感染症流行前と同等の実施をしている。ノルディックウォーキングのボランティアは、定例会だけでなく、出張による実践やPRを行っているが、昨年度は降雨や熱中症アラートなどの関係で開催中止となる機会が多かったことが減少要因だと思われる。
- ・基本施策4「休養とこころの健康づくり」に対する市の取り組みについて、令和4年度から6年度にかけての自殺者数は横ばいであり、国の自殺総合対策大綱の目標達成に向け、更なる取り組みを推進していく必要がある。令和6年度には、健康福祉まつりでの啓発活動や、成田市立図書館との協力による自殺対策関連書籍の特設コーナー設置など、普及啓発に力を入れている。医療相談ほっとラインの相談件数が減少した要因は、委託業者の変更による集計方法の変更であったが、現在は集計方法を改善済みである。
- ・基本施策5「禁煙・受動喫煙防止対策・適正飲酒への取り組み」について、妊婦に関する普及啓発活動として、母親学級にて啓発物の配布などを行っているほか、子ども家庭センターによる妊娠届出書を受理する際、妊婦及びパートナーの飲酒や喫煙状況を聞き取り、指導を行っており、引き続き周知に努めていく。
- ・基本目標2「ライフステージに合わせた健康づくりを行います」のうち、基本施策1「安心して子供を産み育てられる支援体制の充実」について、母子健康手帳交付の実績については年々、減少傾向となっている。母親学級については、2か月1コースで内容を集約して実施することで、参加しやすいように配慮している。なお、母親学級やパパママクラスの参加者から、出産前に実技指導を受ける機会がないため、YouTube等で動画を見て勉強をしているという声が多く聞かれる。実際に見て体験することにより、具体的なイメージを持つことが出来ると好評であるため、引き続き、事業内容や事業開催方法をニーズに合わせながら変更し、参加者の満足度がより高くなるようアップデートしていく必要があると考えている。
- ・次世代に向けた保健対策の充実(青少年期)について、支援が必要とされる妊産婦等に関して開催する子育て支援課との連絡会は、令和6年度は増加したが、5年間の推移では減少傾向にある。これは、令和5年2月以降、伴走型相談支援が開始されるなど、他の制度による産前・産後のサポート体制が充実し始めていることも要因の一つと考えられる。今後も関係各課との連携や他制度も活用しながら、妊産婦等に対する支援体制を継続していく。
- ・【基本施策4】介護・認知症予防対策について、介護・認知症予防対策です。高齢者人口の増加に伴い、要支援・要介護認定者数も増加しており、介護予防と活動の支援体制は重要なものとなっている。高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業については、健康寿命の延伸を目指し、高齢者の健康づくりや介護予防を目的に、国・県から推奨されている事業であることから、令和5年度より実施している事業である。
- ・基本目標3「地域の支えあいによる健康づくりを推進します」のうち、基本施策1「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」について、令和6年度は、家庭児童相談室の新規相談件数及び問題を抱える

子ども等の自立支援事業の件数が減少しているが、5年間の推移でみると、おおむね横ばい傾向である。引き続き相談体制の強化を図り、保護者の育児に対する不安感や負担感の軽減に努めていきたい。

- ・【基本施策2】継続的な健康づくりに取り組むための地域づくりについて、地区保健推進員は令和5年度をもって廃止となったが、令和6年度は、新たな取り組みとして、離乳食の調理方法の紹介動画を職員が作成し公開するといった取り組みを実施した。今後、動画などの媒体を用いて、これまで地区保健推進員が担っていた地域における啓発活動を検討していく。また、健康ぼらんていあは登録団体と登録人数が減少傾向であり、なり手不足の解消が課題である。今後も地域ぐるみで健康づくりを行えるよう、ボランティアに対する研修会などを通じて、ボランティア活動の活性化を図っていく。
- ・基本目標4「健康を支える環境を整えます」のうち、基本施策1「地域医療の推進」について、在宅医療・介護連携の推進は、研修会や講演会のほか、在宅医療を実施している診療所へ定期的に新規受け入れの可否について情報収集するとともに、地域包括支援センター、ケアマネジャー、病院相談員に周知するなど、医療と介護の連携がスムーズに図れるよう支援を行った。講演会は、会場参加者が増加したが、今後もテーマの選定等、講演会の内容を充実させることで参加者の増加につなげたい。

(議長)ありがとうございました。ただいま、事務局から説明がありましたが、ご意見ご質問はありますか。

(中佐藤委員)

「シニア教養講座開設事業」が昨年度で終了するとあるが、参加者数が例年増えている中で廃止となる理由は。

(健康増進課長)

高齢者福祉課の事業であるが、他課の事業と重なる部分があるため、市全体の事業を見直し、ブラッシュアップするために廃止となったものでございます。

(山田(徳)委員)

民生委員児童委員の相談数値は、各地区が報告した数値を取りまとめたものか。

(社会福祉課長)

お見込みのとおりです。

(西田会長)

「人生カッコよくプロジェクト」について、昨年度は特に実績が伸びているが、その要因は。

(介護保険課長)

昨年は市制施行70周年記念として、特別な記念講演を行ったこと、また、プロジェクト監修・講師をされた認知症専門医の朝田先生が大変人気のあるかたであることから、集客に繋がったと考えております。

(中佐藤委員)

成田スポーツフェスティバルの実績が減少している要因は。

(健康増進課長)

他課事業となりますが、市民になるべく楽しんで参加いただけるよう、開催種目等の検討をしたと伺っております。

(城委員)

現在、若い子育て世代は共働きが多く、ボランティアに参加する余裕がないため、中心となっているのは高齢者である。例えば、先ほど話にあった「人生カッコよくプロジェクト」において、このような元気な高齢者の力を活かして、高齢者間の連携を取ることができれば、人材を確保するシステム構築にも繋がるのではないか。

(介護保険課長)

「人生カッコ良くプロジェクト」は、認知症予防のプログラムとなっておりますことから、ボランティアの活躍する機会がありません。一方で、「シニア健康カレッジ」や「なりたいいきいき100歳体操」などの事業において、多くの方にボランティアとしてご協力いただいております。教室に参加された高齢者が指導員となっ
ていただくという仕組みはできておりますので、今後さらに広まっていけばと考えております。

(城委員)

今後は特定の事業に限らず、様々な分野で、高齢ボランティアに活躍いただける方法を検討されたい。

(中佐藤委員)

「なりたいいきいき100歳体操」の昨年度実績は、市が主催した分の実績になるのか。市全体での参加者の実績は分かるのか。

(介護保険課長)

健康増進計画掲載の数値は令和6年度に新規立ち上げ団体に参加された方の人数であり、介護保険事業計画の説明で申し上げた数値は、市内活動団体における登録者数となります。

(城委員)

放課後子ども教室推進事業について、実施校が減った理由は。

(健康増進課長)

生涯学習課の事業となりますが、事業を担うコーディネーター等の人員が不足したことによるものであります。

(城委員)

本事業については、かつて1校ずつ増やしていくという計画があったと記憶しており、担い手不足を実感するところである。自身もボランティア団体を運営しているため、担い手の発掘に力を入れる必要を感じた。

(健康増進課長)

いただいたご意見については、担当課にもお伝えいたします。

(西田会長)

「医療相談ホットライン」事業について、対応は電話のみとなるか。

(地域医療政策課長)

現在の対応は電話のみとなっております。

(西田会長)

今後、AIを活用したメールやチャットボット等、DX化の検討予定は。

(地域医療政策課長)

現時点での具体的な予定はありませんが、今後の状況を調査してまいります。

(西田会長)

DX化は避けられない時代の流れであるため、検討されたい。

(議長)

それでは、続きまして、⑥第2期成田市歯と口腔の健康づくり計画について、事務局の説明を求めます。

(健康増進課長)

成田市歯と口腔の健康づくり計画について、ご説明申し上げます(以下、概要記載)。

- ・本計画は、市民が自ら歯と口腔の健康づくりに取り組むとともに、市や歯科医師等をはじめとする全ての関係者が、それぞれの役割において歯と口腔の健康づくりを推進し、市民の健康の保持増進及び健康寿命の延伸に寄与することを目的として策定したものであり、令和2年から令和8年度の7年間として

いる。なお、計画の中間時点である令和5年度には、本計画の基本理念である「口腔から始める健康づくり、未来を築く出発点」を実現するため、目標項目及び目標値の評価を行った。

- ・本計画は、妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期、障がい者(児)・要介護者等、社会環境、の7つのライフステージごとに指標と数値目標を設定している。
- ・乳幼児期は、むし歯のない者の割合は、すべての年齢において増加し、目標値を達成している。ひとりあたりの平均むし歯経験歯数も年々減少しているが、令和6年度は一部で増加したことから、乳児期から積極的にむし歯予防に取り組めるよう、歯科保健指導の強化に努めたい。
- ・学齢期は、学校で取り組む歯と口腔の健康づくりを効果的に支援するため、学校事業として健康教育やブラッシング指導等の支援を行っており、むし歯のない者の割合が増加し、歯肉に炎症を有する者の割合は改善している。
- ・成人期は、「成人歯科検診」を実施している。成人歯科検診の受診率は、令和5年度から増加している。国が実施する歯科健康診査推進事業のモデル事業を活用し、令和6年度は20歳、30歳、40歳、50歳の4年齢に対し受診勧奨を行い、受診率の向上に努めた。引き続き歯科受診の必要性や歯周病予防の啓発等、成人期の歯科保健行動に対する働きかけに努めていく。
- ・高齢期や障がい者(児)、要介護者等に対する取り組み、歯と口腔の健康づくりを推進するための社会環境の取り組みについて、現在、市内歯科医療機関に対し、アンケートを実施し、集計中である。歯科医院のバリアフリー化や通院による歯科診療の実施体制等の情報収集を進め、必要なサービスや情報が提供される体制整備に取り組んでいきたい。

(議長)

ありがとうございました。

ただいま、事務局から説明がありましたけれども、ご意見ご質問はありますでしょうか。

(西田会長)

口腔全般のオーラルフレイルという概念も出てきているが、今後、市として取り組む予定は有るか。

(健康増進課長)

市では毎年、8020運動を実施しており、今年度も歯科医師会と連携して、高齢者の歯と口腔の健康に關する表彰式を実施したところでございます。また、「なりた知っ得出前講座」では、歯科衛生士が出張講座を行っている外、オーラルフレイルを予防する体操の周知や、歯の健康に関する講演会の実施、健康・福祉まつりにおける歯の健康の重要性を啓発するブース設置なども行っております。

(西田会長)

歯の健康維持として、歯科衛生士との連携は大事なことだが、口腔のオーラルフレイル対策として、リハビリテーション専門職である言語聴覚士の協力も得ながら、対策を進めてもらいたい。

(議長)

それでは、最後の議事、⑦いのち支える成田市自殺対策計画について、事務局より説明をお願いします。

(健康増進課長)

いのち支える成田市自殺対策計画について、ご説明申し上げます(以下、概要記載)。

- ・本計画は、自殺対策基本法に定められた「市町村自殺対策計画」として、国の「自殺総合対策大綱」の趣旨を踏まえ、市の実情に応じた総合的な自殺対策の施策を策定するもの。本市では、「成田市健康増進計画」において、自殺対策基本法を踏まえた自殺予防に対する取り組みを進めていたが、自殺対策の施策をさらに発展させるため、「成田市自殺対策計画」を策定した。
- 計画期間は、「健康増進計画」が令和8年度までとなっているため、整合と連携を図るため、次期計画の策定期間に合わせて、令和6年度から令和8年度までの3年間としている。
- ・「基本施策1 地域におけるネットワークの強化」では、社会的包括支援を受けることのできる環境を整備するための行政、関係機関との連携強化に取り組むこととし、包括的相談支援体制の構築を主な取組事業としている。
- ・「基本施策2 自殺対策を支える人事育成」では、様々な悩みや生活上の困難を抱える人に対して、早期の「気づき」が重要となりますので「気づき」のための人材育成に取り組むこととし、ゲートキーパー養成

講座や認知症サポーター養成講座を主な取り組み事業としている。なお、いずれの事業も、令和6年度の参加人数は、前年比増となっている。

- ・「基本施策3 住民への啓発と周知」では、自殺に追い込まれてしまう危機に陥ってしまった人の気持ちや背景への理解を深め、心の健康に関する正しい知識の普及啓発について取り組むこととし、教育現場における命を大切にするキャンペーンを主な取り組み事業として、成田市立小学校全校で実施している。
- ・「基本施策4 生きることの促進要因への支援」では、自殺リスクを低減させるため、自殺対策と関連の深い様々な分野の取組を幅広く推進することとし、市民の自殺リスク低減のため、各種相談業務、相談体制の充実を主な取り組み事業としている。指標と数値目標については、本年度に次期健康増進計画のためのアンケート調査を実施し、最新数値を把握する予定である。
- ・「基本施策5 児童生徒のSOSの出し方に関する教育の推進」では、困難やストレスに直面した児童生徒が大人に助けを求めることのできる相談体制の充実に取り組むこととしている。
- ・「重点施策1 高齢者対策」では、高齢者特有の課題を踏まえ、高齢者に即した包括的な支援を推進するための、居場所づくりや社会参加、地域の見守りなどに取り組むとしている。地域介護予防活動支援事業、地域包括支援センターにおける総合相談支援体制の推進が主な取り組み事業であり、令和6年度は、介護支援ボランティア登録数、地域包括支援センターの相談件数ともに前年比増となっている。
- ・「重点施策2 生活困窮者対策」では、生活困窮者による自殺を防ぐための、生活扶助等の経済的な支援に加えて、就労支援や心身面の疾患に対する治療等の支援など、包括的な支援を推進するとしている。暮らしサポート成田による相談支援、住居確保給付金の支給が主な取組事業であり、継続して取り組んでいく。
- ・「重点施策3 無職者・失業者対策」では、自殺のリスクの高い無職者・失業者に対して、多職種、多分野で支える当事者本位の支援体制の構築に取り組むとしている。女性・若者の就業支援、就業技術援助事業が主な取組事業であり、指標のうち、就業技術援助は増加、ハローワーク成田によるマザーズコーナー利用者数はおおむね横ばいとなっている。

(議長)

ありがとうございました。では、委員の皆様から何かご質問ありますか。

(委員) 発言無し

(議長)

それでは、他にご意見等はないようですので、これで、予定していた全ての議事を終了します。

続きまして、報告事項に入ります。

まず、成田市介護・医療地域資源情報管理システムについて、事務局の説明を求めます。

(介護保険課長)

それでは、「成田市介護・医療地域資源情報管理システム」の概要についてご説明いたします(以下、概要を記載)。

- ・現案は仮称であり、今後はより親しみやすい名称に変更予定。
- ・システムは、介護事業所、医療機関、高齢者の通いの場など、介護・医療関連の「地域資源」情報を一元的に集約し、インターネット上で公開、検索を可能にするもので、一般向けと関係者向けの2種類を構築する予定。
- ・一般向けのサイトでは、市内の介護サービスの利用を希望する方やその家族が、介護についての相談先や、一人ひとりのニーズに合うサービス事業所の情報を、簡単に調べることが可能となる。具体的には、地域包括支援センターや、デイサービスに通える施設がどこにあるのか、自宅の近くで百歳体操を行っているところはあるのか、移動スーパーはどこに来るのか、などといった情報を簡単に得ることができる。
- ・関係者向けのサイトでは、支援に携わる職員やケアマネジャーなどが、より簡単に施設の空き情報等を確認でき、スムーズな相談対応が可能となる。登録事業者限定の連絡機能により、介護や医療の業務に携わる関係者間の情報共有や、連携の強化に繋がることも期待される。
- ・機能の詳細等は今後精査していくが、関係者向けサイトを令和8年1月頃、一般向けサイトを令和8年3月頃から公開する予定である。

(議長)

ただいま、事務局より 成田市介護・医療地域資源情報管理システムについて報告を受けましたが、ご意見、質問等はありませんか。

(西田会長)

先ほど意見のあったボランティアの連携やマッチング等も、システムの機能に含まれるのか。

(介護保険課長)

詳細な機能につきましては、今後検討する過程で精査してまいります。

(小暮委員)

子どもについても、高齢者についても、これまで説明してもらった全ての計画に通じることだが、素晴らしい計画であると感じる。その一方で、民生委員をしていると、多くの市民が、計画や事業内容を把握していないと感じる。例えば、計画内容も漢字が多いだけで読まない高齢者はたくさんいると思われるが、我々民生委員が、草の根運動のように、多くの市民に周知することを求められているのかも分からない。先ほどの自殺対策計画についても、現場にいる先生方が、計画の理念を日々の業務に活かしているのか疑問であり、折角の計画が勿体ないと感じる。そのため、この計画の中に、計画を必要とする人に、どのように届けるか、といった視点も加えてもらえれば、より良くなるのではないかな。

(議長)

貴重なご意見をありがとうございます。

私自身、健康講座を開催する際に、集まっていたいている方は健康な方々であり、健康になってほしい人には参加いただけないというジレンマを感じております。一つの対策で全てが解決するという案はないと思いますが、全ての計画に関わる問題だと思いますので、各部署で情報共有をお願いしたいと思います。

(山田(徳)委員)

成田地区の民生委員・児童委員について、現在34人の定員内、団塊の世代を中心に半数が辞める。一部は地区社会福祉協議会に残るが、このような状況で、市からの要望に応えられない状況もあるのではないかと不安に感じている。民生委員もそうだが、団塊の世代を中心に、地域の人材が不足する点を考慮してもらえると有難い。

(西田会長)

地域の人材不足について、システムを活かした補助的な対策を検討するとともに、システムを使えない人達へのサポートを充実させる必要があるのではないかな。

(秋葉委員)

新システムについて、来年1月の稼働前までに、関係者を集めて、どのようなシステムにすれば有用か、といった検討はできないのか。現在、医療・介護分働いているが、膨大な電話とFax対応に追われているという実情があるため、システムによる効率化に期待している。例えば、個人情報の取扱いについても、可能になれば、有用であると思われるため、運用までの進め方を聞きたい。

(介護保険課長)

現在、受託事業者が決まり、システム要件等の詳細について協議しておりますが、個人情報の取扱いは特に慎重を期するため、まずは関係者間の情報共有を図る、ということから始めていきたいと考えております。

(議長)

事務局には、継続的なシステム更新とブラッシュアップの検討をお願いします。

それでは、成田市介護・医療地域資源情報管理システムについての報告を終了し、続きまして、第1回成田市保健福祉審議会子ども・子育て支援部会の報告についての説明を求めます。

(こども政策課長)

それでは、報告事項(2)成田市保健福祉審議会子ども・子育て支援部会の報告について、ご報告させていただきます(以下、概要を記載)。

- ・本部会については、令和7年6月30日の「成田市保健福祉審議会」において設置が承認され、任期は令和7年6月30日から令和9年3月31日までとなっている。1回目の部会は、7月22日に成田市役所議会棟第一委員会室において開催した。
- ・第2期子ども・子育て支援事業計画」の達成状況については質疑が無かった。
- ・「子ども・子育て支援に関する現状と取組について」では、保育園及び児童ホームにおける待機児童の状況と、新規事業を含む各事業の取組状況について説明した。待機児童と入所待ち児童の違いや、保育士不足に対する市の考え方、入所待ち児童の中に障害を理由に幼稚園・保育園に入れない児童がいるのかといった質問があり、事務局がそれぞれに回答した。
- ・「家庭的保育事業所の認可及び利用定員について」では、市内の家庭的保育園「にこ」が、以前は同住所において申請者個人名で認可許可を受けていたが、今般、従前の運営者が株式会社を設立したため、設置主体の変更に伴い、認可が再度必要になったことを説明した。なりた子育てガイドブックに記載の定員との違いについて質問があり、事務局が回答した。

(西田議長)

ただいま、事務局より第1回成田市保健福祉審議会子ども・子育て支援部会の報告を受けましたが、ご意見、質問等はありませんでしょうか。

(議長)

それでは、ご意見等はないようですので、これで、予定していた全ての報告事項を終了いたします。

以上で、進行を事務局お返しいたします。

委員の皆様、長時間、多くの議事の進行にご協力いただき、ありがとうございました。

(事務局)

以上もちまして、令和7年度第2回保健福祉審議会を閉会させていただきます。

ご審議いただき、誠にありがとうございました。

6 傍 聴 者 1名

7 次回開催日時 11月以降(予定)